

第一回光赤外専門委員会 議事録

日時： 2008年7月2日(水) 13:00～17:15
場所： 国立天文台三鷹 南研究棟 大会議室
(ハワイ観測所とTV接続)
参加者： 有本、市川伸一、市川隆、臼田(ハワイよりTV接続)、川端、神田、小林、小宮山、竹田、
(敬称略) 谷口、富田、松原、水本、宮崎、(Ex-officio): 安藤、桜井、野口、藤本
欠席： 岩室、河北
途中参加： 柏川、唐牛、林、Ho、観山
資料： 1: 光赤外専門委員会議事次第
2: 前期光赤外専門委員会からの申し送り事項
3: JASMINE 計画の進捗報告
4: 広島大学 1.5m 望遠鏡計画進捗報告
5: 2008 年度すばる小委員会委員名簿
6: すばる小委員会議事録
7: 光赤外専門委員会名簿
8: 台湾 ASIAA との MOU(案)
9: Princeton 大学との Collaboration Agreement(案)
10: TMT プロジェクト現状報告

● はじめに

桜井副台長より光赤外専門委員会開催について冒頭の辞があった。前期からの変更点は、

- ・ 今期より副台長のどちらかが本委員会に参加することとなった。
- ・ Ex-officio の参加および退席については委員長に一任されることとなった。

その後各委員の自己紹介に引き続き、本委員会委員長の選出を行った。委員長は推薦により水本委員が選出された。水本委員長の指名により、副委員長は松原委員、書記は小宮山委員が選出された。

● 前期光赤外専門委員会からの申し送り事項

資料 2 に基づき前期光赤外専門委員会からの申し送り事項を確認した。今期より先端技術センターについては別委員会で扱うこととなったため本委員会では扱わないこととなった。

● 今期活動方針について

本委員会の役割・今期の活動方針について議論(下記参照)を行った。その結果、本委員会は、光赤外コミュニティーの意見を吸い上げ、広い意味での共同利用機関として国立天文台が進むべき方向性を議論し、国立天文台執行部へ提言していく場として機能することを目指すこととなった。また水本委員長、運営会議委員を兼任する市川

隆委員は、本委員会で議論された提言を台長、運営会議へ速やかにあげていくこととなった。

【主な議論】

- ・ 本委員会は天文台執行部からは低く見られている。例えば、前期委員会によってまとめられた TMT 参加に関する提言書が運営会議で議論されていない、などがその現れである。議事録が遅い、委員長が台長に話にこないこと、などが原因であった。
- ・ すばるには、すばる小委員会があって実効的な議論を行っている。昔は光赤外専門委員会とすばる専門委員会の二つがあったのですばるは独立しても良いのではないかと？ → 専門委員会は増やしたくない。すばる小委員会の話が本委員会を通して上にあがるようにしてほしい。
- ・ なぜ重力波が本委員会に含まれているのか？ → 位置力学系の廃止に伴って、重力波は計測技術の近かった光赤外分野に入れられた。まだ分野として独立するには小さすぎる。お互い不幸。
- ・ 共同利用機関として何をやっていくかを議論するとともに、共同研究を提供する場、最先端の研究機関としてのあり方も議論すべきだ。
- ・ 本委員会の発言権を強めるためには、将来計画などについてワーキンググループを作って集中して提言をまとめていくべきである。 → ワーキンググループを作るよりは、すばる小委員会、光天連、すばるユーザーミーティング等で議論したものを本委員会にあげて、本委員会で議論し、国立天文台執行部にあげていくのがよい。 → 自ら問題を見つけていくことも必要。
- ・ 総論的な提言をしても意味がない。提言は人的・予算的に根ざしたものであるべきである。
- ・ 本委員会は国立天文台で何をするかを考える場であって、大学での Activity まで立ち入って考える必要はないか？ → 大学からどれくらいの貢献が期待できるかを裏づけしてもらおうという意味で台外委員が入っている。
- ・ 他分野から光赤外分野はバラバラであると言われた時の対応についても考えて欲しい。 → SPICA 計画も含めて、すばる小委員会、光赤外各プロジェクト長とで将来計画のたたき台を作っていく。
- ・ 前期光赤外専門委員会でまとめられた TMT 計画に対する提言書を今期委員に回覧する。

● 台湾との共同研究について

台湾 Academia Sinica Institute of Astronomy and Astrophysics(ASIAA)の Ho 所長より、国立天文台との Hyper Suprime-Cam(HSC)についての共同研究構想が紹介された。共同研究の目的は台湾における光赤外天文学の底上げ(装置開発・人材育成)であり、in-kind contribution を希望しているが、Guaranteed Time については要求していない。その後、唐牛氏より HSC 計画の概要、宮崎委員よりすでに始まっている共同研究の内容(装置開発・サイエンスの両面)の紹介がされた。Ho 所長ら退席後議論(下記参照)を行い、MOU についての細かい文言について一週間(7月9日締切)の審査期間を設けた後に、台湾 ASIAA との MOU を承認することとなった。

《追記》: 審査を経て、正式に MOU を承認することとなった。

【主な議論】

- ・ 本当に Guaranteed Time を要求しないのか？ Princeton 大学と比較して不平等ではないか？ → あくまで台湾の光赤外天文学の底上げが目的であるので要求しない。
- ・ MOU の内容はすばる小委員会で十分に議論しており、締結を推奨する。MOU の文言については一部改訂を

要求しているが、まだ直っていない。 → 内容の吟味はすばる小委員会で議論することとし、本委員会ではMOU締結の是非を議論する。

- ・ Princeton 大学との共同研究MOUについてはどうなっているのか？ → すばる小委員会で十分に議論しており、すばるユーザーズミーティングで承認を得た。 → 光赤外専門委員会には挙がってきていないのではないかと？ → 手続きとしては本委員会の承認を得ることとするべきである。 → 次回に改めて議論することとする。

● すばる小委員会委員の承認について

市川隆委員(すばる小委員会副委員長を兼任)より今期すばる小委員会の活動方針が紹介された(資料 6 参照)。今期より委員数を 15 名(台内委員 7 名+台外委員 8 名)に増員することとしたため、国立天文台委員会規則と照合して問題がある場合は桜井副台長が規則の方を変更することとなった。本委員会ではすばる小委員会の委員を承認することとなった。

● 報告事項

川端委員より資料 4 に基づき広島大学 1.5m 望遠鏡計画の進捗状況が報告された。柏川氏より資料 10 に基づき TMT プロジェクトの現状報告が紹介された。JASMINE 計画について資料 3 が配布された。松原副委員長より SPICA 計画についてコメントがあった。

【主な議論】

- ・ 広島大学の長期的な予算・人員見通しはどうなっているか？ → 不安定な部分がある。国立天文台として継続してサポートをして欲しい。
- ・ TMT 計画の情報(特にボード会議で日本がどのような役割を果たしているか)を適宜流して欲しい。 → メーリングリストでニュースレターを配信することとした。
- ・ TMT 準備室から大学での基礎開発へのサポートは？ → 大型予算は当分先だが小額予算はサポート可。
- ・ TMT 計画と京都大学セグメント鏡開発との関係は？ → 技術は活かせるかもしれない。
- ・ TMT 計画で日本の技術的貢献は？ → (1)主鏡材製作、(2)主鏡非球面加工、(3)装置開発を考えている。 → 日本が主鏡製作で主導権を取れるのか？ → まだどこも試作段階。日本でいいものを作りたい。 → TMT プロジェクトの根幹に密接に関係する技術課題の中で、日本が貢献できそうなものをなるべく早めに特定して、その技術開発を進めたほうがよい。日本での予算獲得はこれを軸に行うのがよいのではないかと。また、関連するメーカーとの共同開発になると思うが、技術開発の拠点として、国立天文台先端技術センターのような施設を利用するのがよい。 → 日本の技術を高めていきたいと考えている。
- ・ TMT 計画での日本人枠、日本の Guaranteed Time はどうなっている？ → 交渉ごと。
- ・ TMT 計画の日本分担金(総額の 25~30%)は国力に見合っていないのではないかと？ 運営費は？ → 予算をちゃんと取って進めるようにするよう。
- ・ JASMINE 計画については、Nano-JASMINE と JASMINE との間に Micro-JASMINE を入れるべきであるという提言があった。 → 小型のものを入れるのは JAXA としても歓迎である。
- ・ SPICA は PhaseA に認められた。ATC などの協力等、国立天文台にも協力をお願いしたい。

● アクション・アイテム

- ・ 前期光赤外専門委員会でまとめられた TMT 計画に対する提言書を委員に回覧する(水本委員長)
- ・ 台湾 ASIAA との MOU について、本委員会で承認された旨、観山台長・運営委員会へ報告する(水本委員長)
- ・ すばる小委員会の委員数(15 名)と国立天文台委員会規則の整合性をとる(桜井副台長)

● 次回会合

日程調整は別途行う。